

令和４年度 第２回多治見市地域公共交通会議

議 事 要 旨

- ・開催日時：令和４年１２月２２日（木）１０：００～１２：００
- ・開催場所：多治見市役所本庁舎２階大会議室

《委員》

区分	所 属	氏 名	出 欠
会長	中部大学工学部都市建設工学科 教授	磯部 友彦	○
委員	(財)岐阜県バス協会 専務理事	木村 治史	○
〃	東濃鉄道(株) 運輸部長	加藤 博康	○
〃	コミタクモビリティサービス(株) 代表取締役社長	林戸 達美	○ (代理：安藤)
〃	東鉄タクシー(株)取締役 業務統括	片浦 一郎	○
〃	東濃鉄道労働組合 中央執行委員長	小倉 保二	○ (代理：中島)
〃	多治見市区長会	細江 正尚	○
〃	多治見市悠光クラブ連合会 会長	加藤 孝春	○
〃	市民代表	諸星 洋子	○
〃	市民代表	中嶋 英雄	○
〃	国土交通省中部運輸局 岐阜運輸支局首席運輸企画専門官	宮川 高彰	○ (代理：渥美)
〃	国土交通省中部地方整備局 多治見砂防国道事務所道路管理課長	北澤 しず香	○
〃	岐阜県都市建築部都市公園整備局公共交通課長	佐藤 智紀	○ (代理：酒井)
〃	岐阜県多治見土木事務所施設管理課長	亀山 鉄也	○
〃	岐阜県多治見警察署交通第一課長	中尾 学	○
〃	多治見市福祉部長	加藤 泰治	○ (代理：大山)
副会長	多治見市都市計画部長	知原 賢治	○

《事務局》

- ・多治見市都市計画部都市政策課：日比野課長、原課長代理、加藤総括主査、加藤主査

《事前配布資料》

- ・会議次第・委員名簿
- ・資料１-１：令和３年度多治見市地域公共交通網形成計画の数値目標達成状況【報告事項】
- ・資料１-２：令和３年度公共交通網形成計画達成状況に係る詳細数値【報告事項】
- ・資料２：古虎溪よぶくるバス（コミタクモビリティサービス(株)運行）登録制・予約制の廃止について【報告事項】
- ・資料３：コロナ禍・燃料価格高騰における事業者支援について【報告事項】

(敬称略)

1 事務局挨拶

- ・ (事務局の挨拶)
- ・ (委員紹介)
- ・ 代理出席 5 名で委員 17 名の出席により本会議は成立していることを報告。



2 会長挨拶

(会長挨拶)

3 議題

(1) 令和 3 年度多治見市地域公共交通網形成計画数値目標の達成状況【報告事項】

- ・ (資料 1-1: 令和 3 年度多治見市地域公共交通網形成計画の数値目標達成状況、資料 1-2: 令和 3 年度公共交通網形成計画達成状況に係る詳細数値 を事務局が説明)

【意見概要】

●質問

- ・ 上り線と下り線で利用者数が大きく異なる路線が見られるが、こういった実態になっているか。

●意見

- ・ 今回の評価結果を踏まえて、適宜事業の改善等を検討いただきたい。
- ・ 公共交通利用回数が集計時期の違いにより統計上のずれが生じるのであれば、「実績値」ではなく「評価値」という表現に変更してはどうか。

●渥美委員

- ・ 計画に即して事業を推進する上で、今回のような評価検証は大切なことである。今回提示していただいた資料ではしっかりと評価されているため、評価結果を踏まえて適宜事業の改善等をご検討いただきたい。

→事務局

- ・ ききょうバスや路線バスは利用者数の増加に向けて、引き続き利用促進策を進めていきたい。ただし、いつまでも右肩上がりでは利用者数が増加するとは考えにくいことから、今後は利用促進策以外の取組 (交通事業者への支援等) の実施も検討していく必要があると考えている。

→磯部会長

- ・ 利用者に向けた情報発信含め、利用促進策も継続していく必要があるため、今後も継続してほしい。

●加藤 (孝) 委員

- ・ 資料 1-2 の路線バス平均乗車人数について、上り線と下り線で利用者が大きく異なる路線が見られるが、こういった実態になっているか。分かれば教えていただきたい。

→事務局

- ・ 事務局にて詳細な分析は行っていない。東濃鉄道から補足説明があればお願いしたい。

→加藤 (博) 委員

- ・ 具体的な違いまでは把握していないが、路線が重複している区間があることから、利用が分散していることは考えられる。

●磯部会長

- ・ 資料 1-2 の公共交通利用回数について、集計時期の違いにより統計上のずれが生じていると説明があったが、「実績」として扱うからずれが気になってしまうため、「評価値」という表現に変えてはどうか。

→事務局

- ・ 今後の見直しの中で、検討する。

(次頁へつづく)

(2) 古虎溪よぶくるバス登録制・予約制の廃止について【報告事項】

- ・(資料2: 古虎溪よぶくるバス(コミタクモビリティサービス(株)運行) 登録制・予約制の廃止について を事務局が説明)

【意見概要】

●意見

- ・コスト削減策として「登録制・予約制の廃止」を実施することとしたが、今後も運行を維持していきたいと考えているため、ご理解いただきたい。

●安藤委員

- ・他の公共交通と同様にコロナ禍で利用者数が減少しており、事業改善が必要となっていたことから、コスト削減策として運行システム(登録・予約を記録するシステム)維持費の低減化を図ることとした。市之倉ハイランドにお住まいの方でテレワークの推進から利用しなくなった方もいる一方で、依然として利用されている方もお見えになるため、今後も継続的に運行していきたいと考えている。ご理解いただきたい。

●渥美委員

- ・前回の公共交通会議で利用者が混乱しないような周知をお願いしたが、運輸支局でも周知用チラシを確認させていただき、内容について了承している。

●木村委員

- ・この周知用チラシは既に印刷・配布等しているのか。

→安藤委員

- ・既に車内に掲載して周知している。

(3) コロナ禍・燃料価格高騰における事業者支援について【報告事項】

- ・(資料3: コロナ禍・燃料価格高騰における事業者支援について を事務局が説明)

【意見概要】

●意見

- ・今回の独自支援に対して、交通事業者一同感謝している。

●木村委員

- ・今回の独自支援に対して感謝申し上げる。依然としてコロナ禍の影響が続いており、最近はやや上向きになりつつあるが、コロナ前の水準には戻っていないのが実情である。観光バスについては、国の旅行支援等を期待しているが、第8波及び燃料価格高騰を不安視している。

●加藤(博)委員

- ・今回の事業者支援に対して、感謝申し上げる。コロナ禍の中で利用がかなり落ち込んでおり、今年度はやや回復傾向にあったが、燃料価格の高騰で厳しい運行が続いている。しかしながら、地域の足を担う役割があるため、路線の見直し等も踏まえながら運行していきたいと思う。

●片浦委員

- ・今回に限らず日頃からご支援いただき、感謝申し上げます。今回の支援についても財源は税金となっており、地域の皆様方のお力であるため、今後も地域貢献に努めていきたいと思う。
- ・タクシーの利用状況としては、令和元年度で40万人であったのに対し、令和2年度及び3年度は30万人となっている。コロナ前は昼夜で半々程度の売上であったが、現在は昼でコロナ前の8割、夜でコロナ前の5割となっており全体として7割程度の売上である。交通事業者としては前年に比べ1割減少することはかなり厳しい経営状況であることはご理解いただきたい。
- ・人の流れが変わってきており、コロナ前の様に戻ることを前提とするのではなく、それに適応した形で事業形成をしていきたい。

(次頁へつづく)

●片浦委員

- ・岐阜県タクシー協会より運賃の値上げ申請を行っており、現在運輸局で審査していただいている状況である。1月末～2月に改正運賃が発表される予定であることから、早ければ今年度中に改正運賃での運行が開始されることとなる。社会全体が厳しい状況にある中で恐縮だが、ご理解いただければと思う。

●磯部会長

- ・利用者也公共交通は安全ということをしかりと認識して、ぜひとも使っていただきたいと思う。

4 自由討論

●中尾委員

- ・12月20日まで実施した交通安全運動の啓発活動に取り組んでいただいた関係者に対して、御礼申し上げる。
- ・多治見警察から各交通事業者へのお願いとして、先日、公共交通同士（コミュニティバス・タクシー）の事故が発生した。幸い大きな事故にはならなかったが、社会全体として公共交通の事故は社会問題となる。また、年末に差し掛かった時期ということもあつてか、路線バスの事故も2件発生していることから、各交通事業者におかれては、今以上に交通事故防止の取組徹底をお願いする。
- ・事故発生時の迅速な対応について併せてお願いしたい。警察への迅速な通報に合わせて、迅速な運行維持を図るためにも代替車両の速やかな確保をお願いしたい。事故発生と運行遅延については報道発表が求められる場合があるため、その点も十分に留意いただきたい。

→事務局

- ・コミュニティバスを運行している行政としては報道発表を行い、翌日に新聞記事（2社）として報じられたことをご報告する。

→磯部会長

- ・事故防止及び事故後の対応の徹底ももちろん重要であるが、ドライバーの心と体の健康面についてもしっかりとケアする必要があるため、その点も十分留意いただきたい。

●事務局

- ・地域公共交通会議以外にも、日頃から市民や利用者の方々から様々なご意見やご要望をお伺いしている。全ての要望に応えることは難しいが、事務局で検討しながら対応していければと思う。また、公共交通と福祉交通のすみ分けが必要となってくる部分があるため、今後も連携して進めていきたい。
- ・連絡事項にはなるが、次回の公共交通会議は2月開催となるため、よろしく願います。

●片岡委員

- ・多治見市のタクシーについて、「東濃西部地域」にエリア分けされており、需給バランスが良くないエリアとして指定されている。タクシー協議会でも福祉交通との連携を検討されているため、協力していきたいと思う。
- ・また、多治見市は相乗りタクシーをはじめ、先進的な取組を行っている。これからも拡大に向けて協力していきたいが、どうしても運行エリアが限定される傾向にあることから、もう少し全市的に展開できればと考えている。他都市の事例を参考にしながら、取り組んでいければと思う。

→磯部会長

- ・全国の都市で工夫をしながら運用している事例を参考にして、良いものを取り入れていけるとよいと思う。

●知原委員

- ・9月議会において議員から自動運転バスに関するご意見をいただいた。近辺だと岐阜市が自動運転バスの試験運行をしており、市職員も視察に行っている。本市としても全国的な動向に注視しながら、研究を続けていきたい。
- ・また、土岐市のイオン開業に伴う交通渋滞対策として、東鉄バスにも対応いただいていた。

議事概要

●大山委員

- ・市内の公共交通に関しては、障害者割引の新制度（ミライロID）の導入を各交通事業者をお願いしており、来年の２月頃から運用開始できればと思う。
- ・割引を受ける場合は、これまでは障害者手帳の提示が条件となるが、障害者手帳の情報をスマートフォンの登録し、それを提示することで割引適用とする制度である。
- ・各交通事業者にとっては、様々な名称が用いられる障害者手帳の確認の手間が省略できること、利用者にとっては障害者手帳を提示するという心理的なハードルを解消できることから、ぜひとも推進していきたいため、引き続きよろしくお願いする。

●加藤（博）委員

- ・ミライロIDについては、東鉄バスは既に導入しているため、ご報告する。
- ・イオン開業に関しては、東鉄バスで路線を導入し、相当の利用が見られた。開業当初の週末では4,000人程度、11月になると2,500人程度、12月ではもう少し落ち着いてきている。今後も継続して利用していただけるよう適宜見直しを図っていききたいと思う。

- 以 上 -